

40代の会社員男性。同居する父が、近所の空き家を購入したいと言い出しました。今まで購読してきた雑誌や新聞を保管する場所にしたいということです。

父は自宅で、祖父の代から続く自営業をしています。もう70歳を過ぎており、いわゆる終活を始める年齢だと思っのですが、いまだに週刊誌4誌と新聞2紙を購読し、ため続けられています。本来なら商品を置くスペースにも、週刊誌や新聞が雑然と積まれており、来店いただくお客様への

印象も良くないと感じています。

雑誌や新聞ため続ける父

空き家の購入の話が出た時は、商品の保管場所などに使うのかと思いましたが、違っていました。父は、「週刊誌や新聞には保存しておくべき情報がある」と主張しますが、スクラップやインデックスを作っておらず、必要な情報があつたとしても結局、探せない状態です。父にどのように話せば、空き家の購入を思いとどまり、週刊誌や新聞を処分してもらえようか。

(茨城・N男)

人生案内

海原 純子

(心療内科医)

お手紙を読み、ご指摘はもっともだと考えつつ、自分の部屋を思わず眺めてしまいました。文献、本、学会誌が雑然と積み上がっている状態です。

以前、引越しの時、書籍を大量に処分したことがあります。もう読まないだろうと思ったのですが、自分の一部がどこかに消えたような空虚感に襲われました。以来、本は捨てないことにしました。

必要な情報だけ選んで、後は処分するのが望ましいとは思いますが、しかし、読んだ本は情報のためだけに存在するのではなく、その

時の自分が刻まれた歴史のような気がします。他人から見ると雑然とした山に過ぎませんが、本人は山のどの辺りに何があるかを記憶しているものとも言われます。

父上の新聞や雑誌との関わりについて、こうした視点を加えて話し合われてはいかがでしょうか。

デジタル化が進む中、もしかすると、そう遠くない将来、古新聞や古雑誌が珍しい物として値段がつくかもしれない、などと想像しつつ、終活をしないで購入を続ける父上の元気は素晴らしいと思いました。